

本誌は認知症ケア研究に関する投稿論文（原著、短報、総説、事例報告、地域実践報告）および特集、その他編集委員会が適当と認めたものを掲載する。言語は日本語とする。採択された論文は認知症介護情報ネットワーク（DCnet）にてオンライン出版する（紙媒体の出版は行わない）。

英文名称：Tokyo Journal of Dementia Care Research とし、略称は Tokyo J Dementia Care Res を用いる。

【本誌の目的】

認知症ケア研究の成果を、国内に広く伝えることを目的とする。また、新しい研究手法を確立するための萌芽研究を支援することを目的とする。このため、オンライン出版により、医中誌や J-STAGE に登録され、多くの人に検索され、誰でも無料でダウンロードできるようにする。また、迅速な査読や掲載を目指す。

【発行】

無料ダウンロードのオンラインジャーナルとして認知症介護情報ネットワーク（DCnet）ホームページ <https://www.dcnnet.gr.jp/> に随時掲載し、医中誌で検索できる。また、J-STAGE と医中誌からも直接無料ダウンロードできる。（ただし医中誌への掲載時期は DCnet 掲載から半年程度後になる）。

【投稿資格】

認知症介護指導者や認知症ケア研究者からの投稿を歓迎する。ただし、総説は編集委員会からの依頼を原則とする。

必ず著者全員が投稿前に論文を精読し、共著者となることを了解していること。

【利益相反（COI）申告】

論文の全著者は、厚生労働省が定めた様式に準じて、投稿する年の前年（1～12月）を対象として利益相反（COI）申告をしないといけない。論文の責任著者は、投稿の時点で、全著者の COI 申告をとりまとめて提出する。COI 申告様式は DCnet ホームページからダウンロードする。編集委員会で COI に問題がないか審議する。COI の内容は、論文の末尾に開示する。提出された COI 申告書は 2 年間保存された後、破棄される。

COI が問題となる論文は、原則的に掲載しない。

<COI が問題となる例>

*照明器具メーカー A 社の製品を取り付け、睡眠が良好になる効果を示した研究で、A 社から製品や研究費が提供されているケース。また、論文執筆者が、日頃 A 社の宣伝をして謝金を得ているケース。

【原稿作成方法】

原稿は A4 用紙に 11 ポイント、和文 MS 明朝、英文 Century の文字で印字し、1 ページ 40 行、余白は上下左右とも 2.5 cm とし、タイトルページから連続したページ番号をふる。表についても同じフォントを使用する。表や図・写真は引用順に番号を付ける。

文章のかなづかいについては、別紙 1 を参照すること。

投稿は、電子投稿に限る。テキスト部分（本文、表など）は Microsoft Word® 文書ファイルとし、図・写真等は 1 枚ごとに BMP、非圧縮 TIFF（Windows か Mac かを明記）あるいは PSD（Adobe Photoshop®）画像ファイル、JPEG ファイル、PowerPoint ファイルとする。PDF ファイルは低画質となるので避ける。ただし、写真の場合は、PowerPoint® に貼らず、画像ファイル形式のまま送付すること。表については Microsoft Excel® のファイルとして送る。図表はページ幅 17cm または半分の幅 8.5cm を念頭に置いて作成すること（詳しくは後述）。ファイル名には筆頭著者の名字、投稿形式（原著、短報、総説、事例、地域）を入れる。いずれもわかりやすいファイル名をつける。

なお、査読用には低画質の画像ファイルも受け付けるが、印刷用には高画質のファイルが必要となる。

【投稿前のチェックと投稿先】

投稿前に、①投稿規定に合致しているか、②かなづかいが適切か（別紙 1 漢字とひらがなのルール一覧を参照）、③文献表記が適切か、④COI や謝辞など漏れがないか、などを必ずチェックする。

投稿前に、共著者全員が、原稿をチェックして、投稿を了解していること。再投稿の場合も同様とする。

下記へ電子メールの添付ファイルで投稿する。メールの件名は【投稿形式・筆頭著者名】とする（例：【原著・山田太郎】、【地域実践報告・山田花子】）。初回投稿に ID 番号（例：TJDCR23XXXX）が付いたあとは、件名に ID 番号も加える。

送付先： 認知症介護研究・研修東京センター 認知症ケア研究誌編集委員長
e-mail： jdcrc@dcnet.gr.jp

【査読】

投稿された原著・短報・事例報告等は 2 名の、総説は 1 名の査読者による報告に基づいて編集委員長が採否を決定する。査読は査読委員または編集委員会が適切と認めた者に依頼する。

【生命倫理の尊重】

本誌に投稿する論文は、生命倫理に十分な配慮がなされたものであること。介入研究の場合は、研究倫理審査を受けたものとする。後ろ向き研究については、倫理審査を受けることが望ましい。

【投稿形式別事項】

(1) 原著

原著論文は認知症介護に関する未発表の研究結果に限る。なお、学会発表は未発表と扱う。他誌に投稿中の論文は受理しない。

仕上がりで原則 12 ページ（下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする）を超えない。原稿は、① タイトルページ、② 論文要旨（800 字以内で、目的、方法、結果、結論の順で項目立てをする；文字数を記載する）のページ、③ 本文（文字数を記載する）、④ COI 開示と謝辞（本文に続ける）、⑤ 引用文献、⑥ 表とその説明、⑦ 図・写真とその説明とする。

記述内容については、タイトルページは、①投稿種別、②タイトルとその英訳（冒頭と固有名詞以外は小文字を使う）、③著者全員の氏名と英語表記、④著者全員の所属、⑤責任著者の連絡先（住所・所属先・メールアドレス・電話）、⑥公表可能なメールアドレス（非掲載を希望する場合は非掲載と記載）と、⑦要旨及び本文の文字数、⑧文献数、⑨表・図・写真の枚数、⑩これらから換算した全体の仕上がり推定ページ数、⑪キーワード（単語；日本語優先）5 つ以内を記載する。

本文は、はじめに、対象と方法、結果、考察の順に、分けて記載する（要旨があるので、最後に「まとめ」を設けない）。見出し番号は次のとおり記載する。

例)

方法

1. □□□□□□□□□□
 - (1) □□□□□□□□□□
 - 1) □□□□□□□□□□
 - ① □□□□□□□□□□

文献名、人名、地名、化学名などで日本語として日常化していないものは原語を用い半角とする。数量は CGS 単位により半角欧字で表し、数字と単位の間は 1 半角スペースあける。ただし、℃、% の場合はあけない。α、β、γ などは本文が日本語の場合は全角 JIS フォントを、本文が英文の場合は symbol フォントを使用する。

薬品名は一般名を原則とし、必要ときだけ商品名を付記する。なお、一般の外国語単語の頭文字は、文章の最初、固有名詞、およびドイツ語名詞を除き全て小文字にする。句読点コンマ（,）、ピリオド（.）を使用する。

文献の引用は「雑誌」では著者名、題名、雑誌名、巻数、通巻頁数の始めと終わり、西暦発行年、doi（ある場合）を、「単行本」では著者名、書名、頁数の始めと終わり、発行社名、西暦発行年を、「共著の単行本」では著者名、題名、書名（編集者名）、頁数の始めと終わり、発行社名、西暦発行年を記載する。著者名、および編者名は、日本語の場合には姓名を、外国語の場合には姓と名のイニシャルを記載する。文献は、本文の出順とし、本文中の引用箇所に番号（例：1）を入れる。著者が 3 名以上のときは、3 名までを記載し、残りは「他」または「et al」とする。誌名は医中誌や PubMed/Index Medicus のスタイルに準拠する。コンマ、ピリオドの省略については下記例を参照のこと。なお、外国語、数字は半角とし、半角のコンマ、ピリオド、コロンの後は 1 半角スペースあける。「ウェブサイト」では、著者名/機関名：題目。URL, アクセスの日付. の順に記載する。

<文献の記載例>

・雑誌の場合

- 1) 山口晴保、中島智子、内田成香、他：認知症疾患医療センター外来の BPSD の傾向：NPI による検討. 認知症ケア研究誌 1:3-8, 2017. doi: org/10.24745/jdcr.1.0_3
- 2) Yamaguchi H, Nakajima T, Uchida H, et al: Trends of BPSD, evaluated with NPI, in outpatients of the Medical Center for Dementia. Tokyo J Dementia Care Res 1:3-8, 2017. doi: org/10.24745/jdcr.1.0_3

・単行本の場合

- 3) 山口晴保：認知症ポジティブ!-脳科学でひもとく笑顔の暮らしとケアのコツ. pp161-188, 協同医書出版, 2019.

・共著の単行本の場合

- 4) 中村考一：職場内教育（OJT）の方法の理解と実践Ⅱ（技法）. 認知症介護実践リーダー研修標準テキスト（認知症介護研究・研修センター監修）, pp253-317, ワールドプランニング, 2016.
- 5) 長田久雄、佐藤美和子：認知症の行動・心理症状の考え方. BPSD の理解と対応—認知症ケア基本テキスト（日本認知症ケア学会編）, pp1-11, ワールドプランニング, 2011.
- 6) Maki Y, Yamaguchi T, Yamaguchi H: Anosognosia in Alzheimer's disease dementia. In: Alzheimer's Disease, pp1-16, Nova Science Publishers, 2016.

・ウェブサイトの場合

- 7) 厚生労働省：認知症施策推進大綱について. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236_00002.html, 2021.3.23 アクセス.

表、図・写真は、そのまま製版できるような鮮明なもので、幅 17 cm×高さ 21 cm 以内の大きさとし、十分な解像度を持つファイルとする。300DPI（1 インチ、つまり 2.5cm 当たり 300 ドットの解像度）を目安とする。

図は、掲載サイズをイメージして、文字サイズや図の幅を決める。カラム（右欄または左欄）に納める場合は図の幅が約 8.5cm となるので、作成時に文字サイズを大きくしておくとし、縮小後に適切な文字サイズとなる。

表とその説明、図・写真とその説明には本文を参照しなくてもそれらを理解するために十分な説明をつける。図・写真のタイトルと説明は下に、表のタイトルと説明は上に記載する。

（2）短報（原著論文として扱う）

認知症介護研究における斬新な手法や萌芽的な研究成果を発表する。刷り上がりで原則 7 ページ（下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする）を超えない。原稿は、原著の書き方に準ずる。引用文献は 15 件以内とし、原著の規定に準じて記載する。

（3）総説

総説は、編集委員会からの依頼を原則とする。認知症介護研究の推進に役立つ知識の整理、新しい考え方の紹介や仮説の提唱などを目的とした総説（他誌に未発表のもの、投稿中でないもの）とする。原稿の書式は原著の規定に準ずるが、要旨は不要とし、項目立てをしてわ

かりやすい書き方が望まれる。刷り上がりで原則 15 ページ（下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする）を超えない。

（４）事例報告

本誌は認知症介護現場での事例（症例）の報告を歓迎する（認知症の人への介入のみならず、職員への研修効果なども含む）。未発表の（他誌に投稿中でない）ものに限る。刷り上がりで原則 7 ページ（下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする）を超えない。原稿は、① タイトルページ、② 要旨（400 字以内）、③ キーワード（単語）5 つ以内、④ 本文（簡潔に記載する；まとめは不要）、⑤ COI 開示、⑥ 引用文献 15 件以内、⑦ 表、⑧ 図・写真の順とする。謝辞は本文の最後につける。記述内容については、タイトルページ、表、図・写真、引用文献等は原著の規定に準ずる。

（５）地域実践報告

本誌は地域実践例の報告を歓迎する。未発表の（他誌に投稿中でない）もので、単に実践の報告ではなく、その成果を示し、提言を示すものが望まれる。刷り上がりで原則 7 ページ（下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする）を超えない。原稿は、① タイトルページ、② 要旨（400 字以内）、③ キーワード（単語）5 つ以内、④ 本文（簡潔に記載する；考察はなくても良い；まとめは不要）、⑤ COI 開示、⑥ 引用文献（15 件以内）、⑦ 表、⑧ 図・写真の順とする。謝辞は本文の最後につける。記述内容については、タイトルページ、表、図・写真、引用文献等は原著の規定に準ずる。

【仕上がりページ数の目安】

1 ページ当たり、日本語 1,300 字、文献 25 件をおよその目安として計算すること。図表については、仕上がり 1 ページに何枚載せるかから、図 1 枚あたり何ページに相当するかを算出する（例：1 ページに 4 個の図を載せるなら 1/4 ページとなる）。

こうして算出した全体のページ数が論文タイプごとの仕上がりページ数以内であることを確認する。ただし、ウェブ掲載なので、編集委員会が必要と判断する場合はページ超過を認める。

【著作権・出版権】

本誌に掲載された論文の出版権は、認知症介護研究・研修東京センターに帰属するが、著作権は責任著者に帰属する。

【校正】

本文の内容（図表も含む）の修正は最小限とする。また、著者校正は 1 回のみとし、メールで受け取り後、7 日以内にメールで返送する。

【掲載料・別刷料等】

掲載料は無料とする。

別刷りは印刷しないが、責任著者に PDF ファイルを無料で送付するので、責任著者が印刷し

て自由に配付できる。責任著者が所属する施設・団体ないしは個人のホームページに論文ファイルを掲載することを認める。

【編集委員（○編集委員長）】

○山口晴保、橋本萌子、中村考一、花田健二、滝口優子、山上徹也（群馬大）、藤生大我（大誠会）、小此木直人（大誠会）

【査読委員】

内田陽子（群馬大）、宇良千秋（東京都健康長寿医療センター研究所）、奥山恵理子（浜松人間科学研究所）、木村修代（あさひが丘ホスピタル）、田中聡一（高崎健康福祉大）、田中志子（内田病院）、内藤佳津雄（日本大）、結城拓也（新泉サナホーム）

* 査読は、投稿論文の専門領域に応じて、査読委員以外にも依頼する。

別紙1 漢字とひらがなのルール一覧

誤	正	誤	正
敢えて	あえて	下さい	ください
当たって	あたって	組合せ／組み合せ／組合 わせ	組み合わせ
貴方／貴女	あなた	位	くらい／ぐらい
余り／余りに	あまり／あまりに	此処	ここ
予め	あらかじめ	事	こと
有る／有り	ある／あり	毎	ごと
或いは	あるいは	殊更	ことさら
改めて	あらためて	頃	ころ／ごろ
併せて	あわせて	先程	先ほど／さきほど
言う／言わば	いう／いわば	流石	さすが
如何／如何に	いかん／いかに	様々	さまざま
幾つ	いくつ	更に	さらに
何れ	いずれ	し難い	しがたい
致す／致します	いたす／いたします	直に	じかに
頂く／戴く	いただく	従って	したがって
至って	いたって	暫く	しばらく
何時	いつ	直ぐに	すぐに
一層	いっそう	既に	すでに
一旦	いったん	即ち	すなわち
一杯	いっぱい	全て	すべて
一遍に	いっぺんに	折角	せっかく
今更	今さら／いまさら	是非	ぜひ
未だ	いまだ／まだ	側／傍	そば
居る／居り	いる／おり	大分	だいぶ
色々	いろいろ	沢山	たくさん
所謂	いわゆる	只	ただ
内	うち	但し	ただし
得る	うる 「～ありうる」の場合	例え（ば）	たとえ（ば）
嬉しい	うれしい	度／度々	たび／たびたび
概ね	おおむね	為	ため
置く	おく 「～しておく」の場合	団欒	団らん
恐らく	おそらく	丁度	ちょうど
凡そ	およそ	一寸	ちょっと
及び	および	遂に	ついに
且つ	かつ	可也	かなり

誤	正	誤	正
付き	つき「～につき」の場合	先ず	まず
創る	つくる	益々	ますます
繋げる／繋がり	つなげる／つながり	又（は）	また（は）
できごと	出来事	全く	まったく
出来る	できる	迄	まで
問合せ／問い合わせ／問合わせ	問い合わせ	若しくは	もしくは
通り	とおり／どおり	持つ	もつ（人が持つのではなく、事物が備える場合）
時	とき／どき		
何処	どこ	以って	もって
所／処	ところ／どころ	尤も	もつとも
伴い	ともない	専ら	もっぱら
共に	ともに	下で	もとで
捉える	とらえる	元に／基に	もとに
取扱／取扱い	取り扱い	元々	もともと
無い／無く	ない／なく	者／物	もの
尚	なお	最早	もはや
尚更	なおさら	易い／易しい	やすい／やさしい
中々	なかなか	故に	ゆえに
何故	なぜ	行く行く	ゆくゆく
等	など	良い／善い	よい
何卒	何とぞ／なにとぞ	様に／様な	ように／ような
成る	なる「～になる」の場合	因って／依って／拠って	よって
何等／何ら	なんら	余程	よほど
甚だ（しい）	はなはだ（しい）	訳	わけ
ひとつ／1つ	一つ	僅か	わずか
方	ほう「～のほう」の場合	私達	私たち
他	ほか	割りと	わりと
程	ほど	我／我々	われ／われわれ
程々に	ほどほどに	滅法	めっぽう
殆ど	ほとんど	目指す	めざす
		滅多に	めったに